



ひかり

～ふるさとを愛し、互いのよさを認め、進んで学ぶ生徒の育成～



一月は〇〇、二月は〇〇、三月は〇〇。

2025年になり早くも1か月が終わろうとしています。時が過ぎるのは早いものですね。「一月往ぬる二月逃げる、三月去る」の慣用句から「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」といわれています。これは、正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことを表現しています。1日の元旦から始まって初詣、七草がゆ、小正月などの年始行事が続き、学校へ登校する日が少ないことから、一か月があっという間に過ぎたと感じます。二月は他の月と比べ、日数が少ないのが特徴で節分、立春、建国記念日、天皇誕生日があり、一年で最も短い月なので逃げるように二月は終わってしまうと表現されます。そして三月は、ひな祭り、彼岸、春分などがある一方、卒業や異動の多い季節となり忙しい月となります。毎年この言葉を思い出してはがんばろうと思うのですが、気が付くと三月の終わりになってしまっています。ですが、今年こそはきちんと計画を立てて、「逃げる二月」を捕まえようと思います。みなさんもしっかりと「逃げる二月」を捕まえられるといいですね。

さて、「一月往ぬる二月逃げる、三月去る」はことわざではなく「慣用句」なのですが、慣用句とことわざはどう違うのでしょうか。ことわざや故事成語は教訓や格言を含んでいるのに対して慣用句は日常的な出来事を比喩的に表現したものになるんだそうです。日本語はほんとうに難しく、奥が深いですね。

二年生へ「立志」おめでとうございます。

先日、財田町更生保護女性会と財田町保護司会から二年生に立志お祝いし、記念品をいただきました。奈良時代から明治の中ごろまで、おおよそ十五歳前後が成人と認められ、元服の儀式が執り行われていました。現代では成人は十八歳となりましたが、地域によっては中学二年生の今の時期に「立志式」をしてお祝いする習慣もあります。自分のこれからの人生について考える機会になるといいですね。

「ありがとう」の反対は「あたり前」

先日の全校朝礼で話した「ありがとう」の反対は「あたり前」について書きます。「ありがとう」は漢字で書くと「有り難う」になります。「有る」ことが「難しい」つまり「滅多にない」という意味です。だから「ありがとう」の反対は「あたり前」になります。5月の道徳の日と6月の道徳通信でキヨスクの店員が買い物をしたときにお礼を言う人は十人中、一人か二人だという話がありましたね。覚えていますか？「ありがとう」という言葉はどんなときに言いますか？何か特別なことをしてもらったり、助けてもらったときに言いますね。先週、2年生が校外学習に行きましたが、バスの運転手さんに「お願いします」「ありがとうございました」と言いましたね。バスにはお金を払って乗っているのだから、つまり自分たちはお客さんだから「ありがとうございます」なんて言う必要はないという考え方もあります。みなさんはどう思いますか？私は、お客さんだからしてもらうのは「あたり前」だと考えるのは何か違うなと思います。「あたり前」と思っていることも、実はたくさんの人に支えられて成り立っています。だからこそしてもらったことに対して「ありがとう」を言いたいなと思っています。

「あたり前」だと思っていることが、実は「あたり前」ではない。そしてそのことに対して、素直に「ありがとう」と言える人はかっこいいなと思います。「ありがとう」という言葉がたくさん聞こえる和光中学校にしていきたいですね。

「受賞おめでとうございます！」

◎第48回全日本アンサンブルコンテスト香川県大会中西讃地区大会（12/22）

銅賞 和光A

和光B

◎香川県中学1年生強化卓球大会（団体戦）女子団体（12/25）

第1位 高瀬・和光中学校

*氏名は、紙面でご確認ください